

# 夏休み特別版！まちの歴史を知ろう

まちのたから

## 発見

にしうじ  
仁正寺（西大路）藩を立てた武将

いちはしながまさ  
初代 仁正寺藩主 市橋長政



▲市橋長政像（清源寺蔵）

今回は、日野に来た最後の戦国武将であり、幕末まで大名として活躍した市橋氏を紹介します。

元和6（1620）年、幕府は長勝本人や家臣達が提出した嘆願書の願いを聞き入れ、長勝の死去により、一旦は没収と決定した市橋領の相続を、養子である長政に認めました。

三条4万石から仁正寺2万石へと所領は減りましたが、当時、養子相続を認め、大名として存続したことは異例のことでした。

国家的な事業としては、寛永元（1624）年に西日本や北陸の大名に命じた、大坂城の再建が挙げられます。この時、長政も家臣を派遣して、通せるかということが求められました。

夏の陣の後には、越後国（新潟県）三条4万石へと所領を増やしていました。また、個人的にも家康の信頼が厚く、家康が亡くなる直前には病床に呼ばれ、後事を託されるほどでした。

長政自身は、関ヶ原の合戦や大坂の役にも出陣した戦国武将でしたが、江戸時代の大名に徳川幕府が求めたのは、主に地方行政官としての能力でした。そのため、大名には幕府が出すさまざまなお仕事や任務を、いかに着実に、無難にやり通せるかということが求められました。

長政の功績その1として、長勝から長政へ

元和6（1620）年、幕府は長勝本人や家臣達が提出した嘆願書の願いを聞き入れ、長勝の死去により、一旦は没収と決定した市橋領の相続を、養子である長政に認めました。

長政自身は、関ヶ原の合戦や大坂の役にも出陣した戦国武将でしたが、江戸時代の大名に徳川幕府が求めたのは、主に地方行政官としての能力でした。そのため、大名には幕府が出すさまざまなお仕事や任務を、いかに着実に、無難にやり通せるかということが求められました。

蒲生氏郷が、日野から伊勢松ヶ島（三重県松阪市）へ移つた後、日野の地は、豊臣秀吉や徳川家康といつた時の権力者の直轄地や、その家臣たちの領地として、細かく分けられて統治されることとなりました。

そうした中、元和6（1620）年9月に、蒲生郡と野洲郡2万石（のうち1万8千石）の大名として日野に



▲市橋長勝像（清源寺蔵）



今も残る本丸石垣の修理に当たり、無事にやり遂げた事が記録に残ります。

また近江（滋賀県）国内の事業としては、寛永11（1634）年に、普請奉行の一人として、多賀大社の改築の指揮に当たっています。この時の工事は、本社・末社を含めた大がかりなもので、この時造られた一の鳥居（高宮大鳥居）や反橋（太閤橋）、下馬橋は今でも見ることができます。



▲高宮大鳥居（多賀大社「一の鳥居」）

6地区に分け、それぞれに「巡回使（調査官）」を派遣することにしました。

長政は中国地方と隱岐（隱岐の島）14か国の巡査使の長官として、現地調査に当たりました。この時、調査の途中で、賄賂を受け取った家臣の処罰を行つてあります。

さらに寛永12（1635）年には、三河国（愛知県東部）から西の地方に点在する、膨大な徳川直轄領（天領）の管理をするため、初めて幕府が設けた、国郡奉行（西郡奉行・上方奉行とも）を拝命しています。のちにこの職務は、徳川家の重臣が管轄するようになる重職であることから、当時、長政が幕府から厚い信頼を得ていたことがよくわかります。

このように、わずか2万石とい

う小さな藩の大名でありながら、徳川家の重臣と同格に扱われ、またその期待にこたえた長政でしたが、慶安元（1648）年に死去しました。

また、近江の小さな藩の大名といふ概念をはるかに超えた、長政の個人的な能力をうかがい知ることができます。

### ●市橋長政の功績その2

寛永10（1633）年、幕府は諸国情勢を調査するため、全国を

### 今に伝わる市橋氏の遺産

市橋氏の家紋は、「丸餅・菱の三つ餅」となっています。それは、先祖が敵の城を元旦に落城させることが



▲勘定部屋遺構（西大路集議所 西大路大石町）



▲北詰の木戸遺構（経王寺山門 西大路殿町）

出来たことから、鏡餅・菱餅を家紋にしたといつゝと記録に残ります。この「菱の三つ餅」の紋様。どこかでご覧になられた方もおられると思います。西大路小学校の校章は市橋氏の家紋をもとに作られています。



市橋家家紋



西大路小学校校章



治時代以降に京都の相国寺林光院や西大路集議所として移築・現存しています。このほか、興教寺門前にあつた北詰の木戸（門）が、経王寺山門として移築現存しており、市橋氏の家紋が描かれた瓦を見ることがあります。

また、清源寺書院や聖財寺、法雲寺など、藩の建物を移築したと伝えられる寺院や、武家や商家、農家など一部の建物、殿町通・中町通・裏町通といった街路などが当時の姿を今に伝えています。